

小笠原村人口ビジョン・総合戦略(案)に寄せられた意見と意見に対する考え方

| 意見の概要 | 意見に対する考え方 |
|---|---|
| <p>①安定した雇用については、しっかりとした第1次産業の確立が基盤にあり、その上に加工業や観光業があるべきだと思います。</p> <p>その点では父島において、農業者はまだまだ少ないが、農業を志望する人はいます。しかしながら、ほとんど断らざるを得ない状況です。それは、②の新しい人の流れを作るという点が、そこでストップしており、原因の一つは住宅の確保ができないことです。私自身も経営規模の拡大を目指していますが、労働者の確保のために住ませる住宅がありませんし、たとえあっても高額すぎて家賃が払いきれません。どこの経営者も同じ悩みを抱えています。</p> <p>③若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるも、同じ住宅の確保で躓いています。さらに返還後に建てられた多くの建物が老朽化しております。</p> <p>先日、都営二戸建住宅の改築工事について説明会がありました。十分納得できる内容ではありませんでした。現状維持ではなく、積極的に増築を実行していただきたい。単身世帯、子供のいる世帯、高齢単身世帯向けの多様な住宅の確保こそ、人口ビジョン総合戦略の基礎にあるべきだと確信しています。村、都、国の垣根を越えた、政策の構築に向けた話し合いも必要です。用地の確保、管理実態、資金、運営なども融通をきかせ前へ進めなければいけません。山を切り崩すには自然保護や老人の利便性の問題がありますので、あきらめて、奥村の沢山ある空き地や、清瀬の東京都職員住宅及びその空き地を利用すればと提案いたします。格安の公営住宅の確保があれば、移住したい若者がたくさん就業し、活気ある子供のいる小笠原村が持続できると思います。その中から、介護や第1次産業、その加工業に就業する人が出てくるのです。また、これから建てられる、民間アパートや住宅も将来の高齢化、在宅介護を見据えて、バリアフリー対応を推奨すべきです。</p> | <p>雇用の安定には、力強い第1次産業の基盤があつてこそありますので、ご意見の「しっかりとした第1次産業の確立」「加工業や観光業との連携」の部分については、プロジェクト3の具体的な施策1の目的の中へ加えます。</p> <p>当村における人口対策・雇用対策において、生活基盤としての住宅の確保が大きな課題というのをご指摘のとおりと認識しております。</p> <p>一方で、小さな離島である当村にとっては、急激な人口増加は自然環境等への影響の面においてあまり好ましくないこと、あるいは短期的な取り組みで解決するものではないため、本総合戦略では主に交流人口やUターン者の増加によって、まちの活力を維持していく方針を打ち出しています。</p> <p>この総合戦略では、住宅に関する具体的施策は記載していないものの、45年後を見据えた人口ビジョンの将来展望で目指す人口増加に向けては、現状の住宅戸数では十分とは考えておりません。住宅環境の整備に向けて、平成25年度に策定した第4次小笠原村総合計画では「安心して住み続けられる住環境づくり」を重点プロジェクトとして位置付けており、都営小笠原住宅の建替えを核として、村全体の住宅施策を構築し、居住選択の幅を広げていくなど長期的な視点をもって、着実に進めていくべきと考えております。</p> <p>ご提案いただきました具体的な方策につきましては、今後の都営小笠原住宅の建替えや、村全体の住宅施策の構築などの検討を進めていく中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p> |